

## 市民上映会

# 「チェイシング・コーラルー消えゆくサンゴ礁ー」から考える



Photo: ALEX MUSTARD/CORAL REEF IMAGE BANK

**日時：2019年7月23日（火）18:30-20:45**

**会場：国連大学 1F アネックススペース**

**主催：国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）  
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）**

**協力：環境省**

- 18:30-18:35** 開会挨拶：渡辺綱男（UNU-IASシニア・プログラム・コーディネーター）  
**18:35-18:45** サンゴの価値について：イヴォーン・ユー（UNU-IASリサーチ・フェロー）  
**18:45-20:15** 『チェイシング・コーラルー消えゆくサンゴ礁ー』上映  
**20:15-20:45** トークセッション  
🐟 スピーカー：岡野隆宏氏（環境省 自然環境局 自然環境計画課 保全再生調整官）  
🐟 スピーカー：イヴォーン・ユー（UNU-IASリサーチ・フェロー）  
🐟 ファシリテーター：星野智子（GEOC）
- 20:45** 閉会

- ※ 上映は、英語音声・日本語字幕。上映以外のセッションは、日本語のみで開催します。
- ※ 映画上映専用の会場ではないため、一部見にくい・聞こえづらいお席もありますが、ご了承ください。
- ※ 開演後の入場は制限する場合があります。
- ※ 定員になり次第、申込は締め切ります。参加費：無料
- ※ 上映中の写真撮影・録音は禁止とさせていただきます。

**参加のお申し込みはこちら**

<http://www.geoc.jp/activity/international/26597.html>



## 【市民上映会「チェイシング・コーラルー消えゆくサンゴ礁ー」から考える】

私たちの暮らしにさまざまな恵みをもたらす海の生態系の中でも重要な役割を担っているサンゴ礁が、深刻な危機にさらされています。2018年10月に気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の特別報告書「1.5° Cの地球温暖化」では、気温上昇を1.5° Cに抑制しても、熱帯地域のサンゴ礁の70～90%が消滅すると発表されています。温暖化以外にも、魚の乱獲、海洋汚染、持続可能でない方法による沿岸部開発などが危機を加速させる要因とされており、サンゴ礁の保全には複合的な対策を考えていく必要があります。

2018年の「国際サンゴ礁年」では、サンゴ礁の生態系の価値やそれを取り巻く脅威について普及啓発し、行動を促すための世界規模のキャンペーンが行われました。2019年3月にナイロビで開催された第4回国連環境総会（UNEA4）の決議では、取り組みを継続することが奨励されています。

こうした背景を踏まえ、環境保全の枠組みにどどまらないサンゴの保全と経済、社会との共生の在り方を、サンゴ礁の白化現象を追ったドキュメンタリー映画「チェイシング・コーラルー消えゆくサンゴ礁ー」とトークセッションを通して考えます。

### 【チェイシング・コーラルー消えゆくサンゴ礁ー】

ダイバーと科学者、写真家らが結成したチームが3年間500時間以上に渡って水中のサンゴの白化現象を追いつけたドキュメンタリー。2017年にNetflixで配信され、エミー賞自然ドキュメンタリー部門で最優秀賞を獲得。鮮明な映像とともにサンゴが直面する厳しい現状を描く。サンダンス映画祭で撮影賞を獲得した「チェイシングアイス(2012)」に続くジェフ・オーロスキー監督作品。（2017年/アメリカ/89分）

### 【市民上映会とは】

映画館以外で自主的に映画を上映する会のことです。本上映会では、国際的にも保全対策が緊急の課題となっているサンゴ礁をテーマにした映画を共有し、意見交換の場をつくることで一人ひとりがテーマについて主体的に考え、保全に向けた行動を加速させるとともに、新たなパートナーシップが生まれ、多様な主体による持続可能な社会づくりに向けたさまざまな取り組みが加速することを目的としています。

### 【スピーカープロフィール】

#### 岡野 隆宏（おかの たかひろ）

滋賀県出身 1972年生まれ。1997年に環境庁(現・環境省)入庁。国立公園のレンジャーとして阿蘇の草原の保全再生、八重山のサンゴ礁の保全再生などに携わる。2010年から2014年まで鹿児島大学特任准教授として、「自然環境の保全と活用による地域づくり」をテーマに政策的手法について研究。2016年より現職。昨年の国際サンゴ礁年2018では、市民参加型調査である「サンゴマップ」を広めるキャラバンに参加し、奄美群島のサンゴ礁を堪能した。

#### イヴォーン・ユウ (Evonne Yiu)

シンガポール出身。農学博士(東京大学)、専門は国際水産開発学。2001年に沖縄県費留学生として初来日し、琉球大学で1年間学ぶ。2003年にシンガポール国立大学人文社会科学部を首席で卒業後、宮崎県、シンガポール国家交通省などの勤務を経て、2010年に日本国費外国人留学生として東京大学公共政策大学院入学。同大学院修了後に国連大学に勤務し、日本や韓国の世界農業遺産についての申請活動を支援するとともに、「SATOYAMAイニシアティブ」とUNU-IAS OUIKの「能登の里海ムーブメント」活動にも取り込み、里山と里海の持続可能な発展を研究。5年前に沖縄にてダイビングライセンス(OWD)取得。

